

平成30年6月1日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03321

研究課題名(和文) 多中心化するグローバル・ガバナンスと国際機関によるオーケストレーションの可能性

研究課題名(英文) Possibilities of orchestration by international organizations in polycentric global governance

研究代表者

西谷 真規子(Nishitani, Makiko)

神戸大学・国際協力研究科・准教授

研究者番号：30302657

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,300,000円

研究成果の概要(和文)：それまで対象とされていなかった分野や事例を分析し、PGGの特徴と、「誰が(権威者)」「どのように(オケの種類)」「どのような条件下で(多争点や多層ガバナンスによる制約と機会)」オケを有効に機能させるかを分析し、PGG下で機能する幾つかのバリエーションと、それらが作動する条件、オケ論の限界等を明らかにした。具体的には、「マクロ・オーケストレーション」と「協働型オーケストレーション」、「反省的オーケストレーション」のモデルを展開した。以上のような成果を、国内外の学会で発表(通算13回)し、Abbott & Snidalを招聘したワークショップを神戸で開催したほか、一部は著書・論文として出版した。

研究成果の概要(英文)：Orchestration may be one promising way of increasing IGO effectiveness and legitimacy. We developed models of specific types of orchestration: macro orchestration, collaborative orchestration, and reflexive orchestration. On the one hand, macro orchestration, that is, system-wide soft coordination, could increase the efficiency and effectiveness of a congested system by strategically streamlining and prioritizing scattered programs. On the other hand, collaborative orchestration, including co-orchestration and multi-orchestration, could enhance the focality, capability, and legitimacy of orchestrators as well as intermediaries under diffused focality. Furthermore, reflexive orchestration would trigger self-organization in the governance system, resulting in a structural change that could enhance the system-wide effectiveness.

研究分野：国際関係論(国際政治)

キーワード：グローバル・ガバナンス 国際関係論 国際機構 企業と人権 腐敗防止 持続可能性 貿易 国連

1. 研究開始当初の背景

2000年代以降、関与主体の多様化(民間主体や官民イニシアチブの参画)、問題領域の複合化(環境と貿易等、異分野の複合)、ガバナンスの多層化(国内、地域、国際レベルの相互作用)に伴い、権威の所在が多層化した多中心的グローバル・ガバナンス(以下、PGGと表記)が、とりわけ環境・資源、開発、人権に関連する分野で増えている。

PGGにかかわる理論的研究は、主に四系統に分類できる。一つは、グローバル・ガバナンスにおける企業等の私的権威を論じたプライベート・レジーム論である。二つ目は、ヤングを中心としたグループにより展開されてきたレジーム相互作用論である。三つ目は、レジーム相互作用論を受けて、アヴァント、フィネモア、セルらが提示した、多様な権威者間の競合関係や協働関係に焦点を当てた、いわば権威間相互作用論である。

上記三つが、国際レジーム論の系譜であるのに対して、四つ目の系譜は、国際行政学に親和性をもつオーケストレーション(調和的編成)の議論である。国内・国際を問わず、公的機関の権威に疑義が付けられる潮流の中で、公的機関は効果的な目的遂行と正統性の回復のために、従来のような垂直的な指揮統制ではなく、「指針」や「原則」等のソフトローを多用した水平的なガバナンス手法によって、マルチステークホルダー・ネットワーク内の多様な利害の調整を促進するようになっている。アポットとスナイダルは、このようなガバナンス・スタイルを国際的な規制における「オーケストレーション」(以下、オケと表記)として提示し、欧米の国際関係論学界で注目を集めている。しかし、研究は緒についたばかりであり、国内はおろか国際的にも十分な研究の蓄積が無く、雑駁なモデルと分野的に偏った事例研究しか行われていない状況だった。

2. 研究の目的

オケ論は、PGGにおける多様な権威者間の利害対立がどのように調整され、各主体の強みが全体としてどのように引き出されるのかという問いに的確に答えることを可能にする。しかし、具体的な手法のレパートリー、バリエーション、有効性、適用範囲条件等について十分に理論化されていないため、PGGの実証分析ツールとして不十分である。当該オケ論プロジェクトの狙いは、このような不足を理論的・実証的に補い、効果的なPGGの条件を解明することにあった。

3. 研究の方法

(1) 環境・資源、人権、CSR、腐敗防止、貿易の分野で、どのような規制が行われてきたか、主たる権威者と、法制度(ソフトローを含む)、ガバナンス手法に焦点を当てながらサーベイし、その変遷を分析する。

(2) 欧州委員会、欧州議会、国連グローバ

ル・コンパクト(UNGC)、国連人権理事会(UNHRC)、国連薬物犯罪事務所(UNODC)、経済協力開発機構(OECD)等の国際機関と、関連の非国家主体(市民社会組織、企業、経営者団体、労働組織等)に聞き取り調査を行い、組織間の役割分担、競合点、ガバナンス手法の実態を明らかにする。

(3) オーケストレーションの具体的手法と有効性条件を体系化する。

4. 研究成果

それまで対象とされていなかった分野や事例を分析し、PGGの特徴と、「誰が(権威者)」「どのように(オケの種類)」「どのような条件下で(多争点や多層ガバナンスによる制約と機会)」「オケを有効に機能させるかを分析し、PGG下で機能する幾つかのバリエーションと、それらが作動する条件、オケ論の限界等を明らかにした。

具体的には、「マクロ・オーケストレーション」と「協働型オーケストレーション」、「反省的オーケストレーション」のモデルを展開した。一方で、マクロ・オーケストレーションにより、多規模の法制度及び援助事業両面での調和・協調および知識の共有を促すことで、ガバナンス・システムの効率性・有効性を向上させる。他方で、協働型オーケストレーションにより、中心性を分け合うオーケストラターのリソースを統合し、セクター間、レベル間、分野間の効率的な分業を促進することで、非国家主体も含んだ多様なガバナンス主体の能力、中心性、正統性を強化することが期待されるのである。このような協働型は、相対的な中心性の低さと、オーケストラター間の補完性に基いた協力という条件下で選考されると想定される。さらに、反省的オーケストレーションによって、ガバナンス・システムの自己組織化が促進され、中心的権力による制御によらずに、システム全体の構造的変容を起こすことが可能になるのである。

他方で、オケ論の様々な限界も明らかになった。第一に、オケの手法はPGGの問題を解決するための手法の一つに過ぎず、規制対象との直接的協働や階層的な統制等の他のガバナンス手法との組み合わせや使い分けを考えなければならないことが明らかになった。第二に、オケによって権威者の能力や影響力が向上する結果、権威者間の関係性が変化し、オケの有効性にも変化がでること、したがって、政策サイクル全体を通じた動態分析が必要であることが分かった。第三に、オケの多用は国際場裏だけでなく国内および地域においても見られる現象であり、それが多層間関係により良い整合性・相乗性をもたらすのかが検討課題となるにもかかわらず、この点は十分に踏み込むことができなかった。第四に、グローバル・ガバナンスにおける民間機関

のプレゼンスは年々高まっているにも関わらず、NGO や企業などの民間機関によるオケの有効性や公的機関のオケとの差異等について十分に検討することができなかった。第五に、PGG に対するオケの効果を分析することには重点が置かれなかった。これらの課題については、今後の共同研究の中で取り組んでいくべきことが確認された。

以上のような成果を、国内外の学会で発表（通算 13 回）し、アボットとスナイダルを招聘したワークショップを神戸で開催したほか、一部は著書・論文として出版した。また、科研メンバー以外の国内研究者を招いてのオケ論研究会を定期的に開催することで、オケ論自体を研究するとともに、発展的な研究の可能性をも模索した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 4 件)

(1) Nishitani, Makiko, “Collaborative Orchestration in Polycentric Global Governance for the Fight against Corruption,” *Journal of International Cooperation Studies*, Vol.26, No.1, 2018, pp.41-73.

(2) 山田高敬「多中心的グローバル・ガバナンスにおけるオーケストレーションと政策革新 企業と人権をめぐる実験」『年報政治学』2017-I、2017 年、109-133 頁。

(3) Yamada, Takahiro, “Corporate Water Stewardship: Lessons for Goal-based Hybrid Governance,” in *Governance through Goals: New Strategies for Sustainable Development*, edited by Norichika Kanie and Frank Biermann, Chapter 8, MIT Press, 2017, pp. 187-209.

(4) 西谷真規子「多中心的ガバナンスにおけるオーケストレーション 腐敗防止規範をめぐる国際機関の役割」西谷真規子編『国際規範はどう実現されるか 複合化するグローバル・ガバナンスの動態』、ミネルヴァ書房、2017 年、201-251 頁。

〔学会発表〕(計 13 件)

(1) Nishitani, Makiko, “Orchestrating ‘Effective and Legitimate’ Governance Networks on Judicial Integrity,” International Studies Association Annual Convention, San Francisco, April 4-7, 2018. (論文報告)

(2) Yamada, Takahiro, “Reflexive Orchestration in a Self-Organizing Governance System: The Treaty Movement as a Consequence of Bounded Orchestration in Business and Human Rights,”

International Studies Association Annual Convention, San Francisco, April 4-7, 2018. (論文報告)

(3) Naiki, Yoshiko, “The New Orchestrators in Transnational Sustainability Governance: Explaining the Role of the International Trade Centre’s Standards Map,” Workshop on Orchestration in Polycentric Governance: Possibilities and Challenges, Kobe, June 23-24, 2017. (論文報告)

(4) Yamada, Takahiro, “Orchestration and Policy Innovation in Poly-Centric Global Governance on Business and Human Rights,” Workshop on Orchestration in Polycentric Governance: Possibilities and Challenges, Kobe, June 23-24, 2017.

(5) Nishitani, Makiko, “Orchestrating Global Polycentric Governance for the Fight against Corruption,” Workshop on Orchestration in Polycentric Governance: Possibilities and Challenges, Kobe, June 23-24, 2017. (論文報告)

(6) 三浦聡「トランスナショナル・ガバナンス・プラットフォーム 国連グローバル・コンパクトのケース」国際法学会 2016 年度研究大会、静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ、2016 年 9 月 9-11 日。

(7) 西谷真規子「グローバル・ガバナンス分析のオーケストレーション・アプローチ 腐敗防止ガバナンスを事例に」グローバル・ガバナンス学会 2016 年度研究大会、早稲田大学、2016 年 5 月 14 - 15 日。

(8) Yamada, Takahiro, “How Should Orchestration Be Performed At the Implementation Stage? A Glimpse into the Implementation of the UN Guiding Principles on Business and Human Rights” International Studies Association Annual Convention, Atlanta, March 16-19, 2016. (論文報告)

(9) Naiki, Yoshiko, “How Can Orchestration Impact Private Sustainability Governance? - Seeking Harmonization and Credible Sustainability Claims” International Studies Association Annual Convention, Atlanta, March 16-19, 2016. (論文報告)

(10) Nishitani, Makiko, “Creating Synergy in a Congested Regime Complex: How Do Orchestrators Enhance the Effectiveness and Legitimacy of Global Anti-Corruption Governance?” International Studies Association Annual Convention, Atlanta, March 16-19, 2016. (論文報告)

(11) 山田高敬「水資源管理における目標志向型ハイブリッド・ガバナンスの可能性」2015 年度国際政治学会研究大会、仙台国際センター、2015 年 11 月 1 日。(論文報告)

(12)

内記香子「持続可能な食と農業分野におけるオーケストレーション - 国際機関とプライベート・アクターの関係に注目して - 」2015年度国際政治学会研究大会、仙台国際センター-2015年11月1日。(論文報告)

(13) 西谷真規子「多中心的グローバル・ガバナンスの調整過程 腐敗防止ガバナンスにおけるオーケストレーションの可能性」国際法学会 2015年度研究大会、名古屋国際会議場、2015年9月18-20日。

〔図書〕(計 1 件)

西谷真規子『国際規範はどう実現されるか 複合化するグローバル・ガバナンスの動態』(編著) ミネルヴァ書房、2017年、377+x 頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
Workshop on Orchestration in Polycentric Governance: Possibilities and Challenges, Kobe, June 23-24, 2017
<http://orchestrationwskobe.tk/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西谷 真規子 (Nishitani, Makiko)
神戸大学・大学院国際協力研究科・准教授
研究者番号：30302657

(2) 研究分担者

山田 高敬 (Yamada, Takahiro)
名古屋大学・大学院環境学研究科・教授
研究者番号：00247602

(3) 研究分担者

内記 香子 (Naiki, Yoshiko)
大阪大学・大学院国際公共政策研究科・准教授

研究者番号：90313064

(4) 連携研究者

三浦 聡 (Miura, Satoshi)
名古屋大学・法学部・教授

研究者番号：10339202